

プロジェクトコーナー



木工実習で理科室建設！

ーブラクール教育プロジェクトの3年目ー
(ひろしま・祈りの石国際教育交流財団助成)

初年度「生きる力となる確かな職業教育」、2年度「スタートの遅れ解消のための就学前教育(幼稚園)」、そして最終年度のテーマは「民族の誇り・伝統文化の継承」。先住民族子弟のための包括的教育プロジェクトはいよいよ終盤を迎えています。

事業の成果は過去2年間のハイスクール卒業生の現況を教師や父兄から聞き取る予定です。今回は将来に役立つ実習風景が届きましたのでお伝えします。



古い理科室は幼稚園にしたので、本事業で理科室兼保健室を建てることになりました。廃材や地元素材を利用した建設工事は格好の木工実習です。



農業実習:山から採集した在来種の苗をポットで育てます。ブラクールや近隣のアグロフォレストリー水源涵養林の苗木として売るなど収入源になります。

10/23開催!ブラクールフェスタ

ドラと鹿皮の太鼓を購入し、民族楽器が揃いました。子どもたちは伝統文化の継承者として、住民や地方自治体関係者にフェスタでお披露目します。



ダグマ山系のアグロ フォレストリー進捗状況

環境財団助成事業2件の報告

ークハン村のバナナ・ココヤシ・果樹栽培ー
(イオン環境財団助成)

果樹苗の日陰作りと土留めのために植えたバナナ(各世帯80本、合計1200本)が葉を広げ、緑の等高線がクハン村周囲の山々を彩るようになりました。

スララ町の PFP 事務所の庭で育苗していたココヤシ(写真)や接木済果樹苗も10月中旬に移植を



終わる予定です。当面の収入源である間作のピーナッツや陸稲も1回目の収穫を終えました。

前号で報告の「山のとっぺんに木を植えよう」という今泉さんのアドバイスについては11月訪問時に確認します。心配なのはクハン村の近隣で、入植者と武装グループの小競り合いがあったというニュースです。詳細は不明ですが、豊かな実りを夢みて頑張る住民が安心して苗木の手入れや収穫作業を続けられるように、現地の治安回復が待たれます。(山崎)

ーパラゴムノキと果樹、在来種による環境保全ー
(三井物産環境基金助成・3年計画)

住民100名の土地各1ヘクタールにパラゴムノキ300本を植え、間には果樹、在来種、ピーナッツと粳が手に入れば主食の陸稲を植える。パラゴムノキは二酸化炭素吸収量が多く、5年後には天然ゴムの原料となるラテックスを採取することができる。というダグマ山系の森林を再生し、住民の収入向上も同時に行う事業に、10月から3年間助成をいただくことが決定しました。

初年度実施のブラクール村では住民集会を重ね、受益者の選定に入りました。決定前の9月訪問時の集会では活発な意見や質問が飛び交い、こちらがたじたじするほど。「収穫できる5年後まで待てますか?」という私の質問に、「息子がハイスクールに入学する時期だからちょうどいい」と前向きに未来を見据えた住民の答えが印象的でした。(九島)